《メモ》

題目決定.

◦ Quran 中に於ける創造の概念

creatio が各瞬間にくり返される
ということについて。

◦ この創造のくり返しという考え方の
背後には

◦ どの一点をとっても そこに

◦ 個物重視主義、

◦ 流れの時間というものでなく、時間
をいまとしてのみとらえる (事実として)

(創造と時間との関係: al-ān の中での創造)

◦ Hospitality の連続性が信頼できない. つまり昨日の patron が今日は敵ということもある. 従ってかって幸福をつくられたアッラー, つまり幸福を肯定された (肯定を与えられた) アッラーでも いつ激怒されて否定をたまわるかも知れぬ (こういう描写は Quran 中に散見される) こういう Arabs の mentality が 今この瞬間に創造がなされていることを要請するのである.

[cf. al-Ashari の時間論]

creatio は時間の概念と結びつく.

これは創造の非連続性ともいい得る。
非連続とは、今の一瞬、ここにあるこのものがそれだけで完結しているということであり、前の結果にすぎないとか、後のための単に準備的なものにすぎないとかの様な見方を拒否するものである。（cf. Sufismの自然観）

連続的な時間、空間の中でのみ一つの明確な形をなし、一瞬一点では不充分であるという観方（体系的なものへの憧れ）はEuropeanであり、Arabsにはこれが欠けている。逆である。一瞬一点で充分なものが、多くの時間、広い空間に伸長していく。いな実際の有様は一瞬一点で充分なもの、そのもののくり返しとして多くの時間、広い空間をうめてゆく ⇒ Arabesque.

こういうArabsの思考法にとって、時間的空間的にあるもの、ある存在が何らかのものの準備的段階、来たるべき、或いは実現さるべき一つの理想的存在へのprocessとしてのみ、価値があるのだという観方は受け入れられない。

従って現世を来世への一つの準備としてのみ意味づける観念はIslamにはない。現世は、これとして一瞬一刻のものであり、これはこれ独自の完全な意味づけをもっており、決して来世へのpreparationのみではないのである。ここにIslam特有の現世肯定の精神がある。

。連続性というものへの不信感がArabsにはあるのではないか。

あのdramaticに ~~[illegible]~~ 巨大なhospitalityはこれが不連続であることを予感してのみ表現可能であると思われる。それが連続するならばenergyは失なわれてしまう。

この接待にはいつか終りが…あると思えばこそ接待できる。

去年豊かにはえていた草がその同じ場所に今年生えているとは限らない。一年一年新らしく草地をもとめる必要があったのではないか。

明日の天気が分らない。いつ砂嵐がくるか